

知る・気づく・行動する 顕彰制度で100年後の地下水を守る

INTERVIEW

財団設立当初から学術顧問等として財団に関われ、地下水保全顕彰制度では、顕彰委員会委員長として企業等の地下水保全意識の向上のために助言をいただくなど、顕彰制度の運営に尽力いただいている篠原亮太委員長（熊本県立大学名誉教授・熊本県環境センター館長）に、財団に対する思いや顕彰制度の意義などについて語っていただきました。



公益財団法人くまもと地下水財団
地下水保全顕彰委員会委員長
篠原 亮太

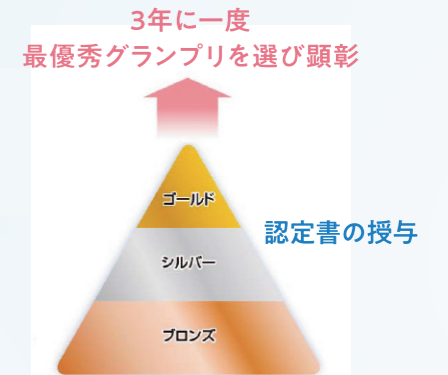


地下水保全顕彰制度とは

熊本地域の地下水保全活動を行う企業・団体の諸活動を顕彰し、その活動を広く周知することで、地下水保全の気運を高めるとともに、更なる地下水保全活動の推進を目的とした制度です。

毎年度、企業・団体の皆様に応募いただき、地下水保全顕彰委員会での審査を経て、ゴールド、シルバー、ブロンズの3段階のランクを決定し、認定書を授与しています。

また、3年に一度、ゴールド認定企業・団体の中から最優秀グランプリを選び顕彰しています。



[これまでの認定企業・団体一覧はこちら](#)



10年で築いた財団の功績、 未来に向けた課題

くまもと地下水財団の設立から10年。調査研究、地下水かん養対策、広報啓発など事業を担う事業部門と総務部門があり、それぞれの部門において人材が育ち実績が蓄積されてきたことは大変喜ばしいことであります。特に調査研究では、県内外の研究者との連携・協力により大きな業績をあげてきました。一例としては、阿蘇郡西原村にある「育水の森」において、九州大学の研究者とともに、降り注いだ雨が木の葉や枝、土から吸収されるバランス、地下にしみ込み長い年月をかけて地下水となる仕組みなどを正確に把握することに尽力されてきました。研究者は自身の専門分野だけを深掘りする傾向にありますが、育水の森では森林と水の専門家が一緒になり調査研究に取り組むことで、多くの実績をあげてきました。これは地下水財団だからできたことだと思います。

一方で、研究に携わる方々の高齢化が進んでいるため、研究分野の継続性に若干の危惧を覚えます。また、財団の認知度がまだまだ低いことから、広報啓発の強化も必要だと考えます。この2つの課題を解決するためにも、ぜひ県内の自治体職員との人事交流を積

極的に行って新しい発想を取り込んだり、市民参加型の支援組織を結成し節水につなげて欲しいと思います。財団にはその音頭をとってもらい、若手の人材確保と広報活動につなげてもらいたいですね。その結果が、豊かな地下水を未来に引き継ぐことにつながっていくと思います。

地下水保全顕彰制度が もたらした功績

この10年で財団がもたらした最も大きな功績は、設立翌年からスタートした「地下水保全顕彰制度」だと考えます。制度が始まった当初は、地下水を大量に使用する機会のある企業からの応募がほとんどでした。しかし近年は環境問題への関心の高まりを受け、ISOやSDGsの取組みの中で地下水保全を推進している企業の応募が増えたように感じます。一例では、観光業にも携わっている認定企業があります。表面的には「水保全」と「観光」はイコールでつながりませんが、「お客様に熊本の観光案内をしながら水の豊かさについて知ってもらう」という意味で大きな役目を担っています。今後、顕彰制度をより実りあるものにしていくためには、もっと多くの企業に「間接的な水との関わり合い」に気づいてもらうことが大切です。

現在、財団には地下水の保全につながるプログラムがたくさんあります。水田を活用した「湛水事業」、地下水を育む田畑で栽培された農畜産物を購入・消費することで地下水保全につながる「ウォーターオフセット」など。「お米を買う」、「お米を食べて育ったえこめ牛を食べる」など、一見、地下水かん養とは無縁なことに思えますが、実は深いつながりがあります。そのことを多くの企業に知ってもらい、身近なことから水保全活動に取り組んで欲しいですね。地下水保全顕彰制度がそのきっかけになることを願います。

豊かな地下水を 次世代に引き継ぐために

熊本の質・量ともに恵まれた地下水は、とても魅力的です。ですから、水を求めて熊本に進出する企業が年々増えています。豊かな地下水資源をPR手段とした企業誘致により、経済発展につなげることはとても大切です。しかし、地下水保全はもっと重要です。「経済発展」と「地下水保全」。両輪のバランスをしっかりと見極め、未来につなげていって欲しいと思います。

同じように、地下水と密接な関係にある農畜産業や林業を正しく管理し、環境全般にわたって保全していくことが求められます。農林業が発展すれば地下水は守

られます。近年の取組みですばらしい例が、硝酸性窒素による地下水汚染の防止などを目的に熊本市が開設し2019年4月から運用を開始した「熊本市東部堆肥センター」です。家畜排せつ物を適正に処理することで水質汚染を防ぐことができますし、家畜排せつ物を原料として作られた堆肥は「くまもとeco牛ふん堆肥」として販売され、誰でも気軽に購入することができ、使うことで啓発活動に一役買っています。

地下水の質・量は見えづらいため、一般の方が想像しづらく、行動に移しにくいという欠点があります。様々な取組みを通して子どもたちから大人まで多くの方に理解してもらい、豊かな地下水を次世代に引き継いでいきたいと思います。



審査員特別グランプリ
公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金 様

私たちの手で守り育む くまもとの地下水

郷土における水資源の質・量両面の愛護ならびに
緑化推進・緑の保全に資するとともに、豊かな地域文化の創造を目的として活動しています。

— 熊本の地下水への思い

人間は水がなくては生きていけません。熊本地域では、このような大切な命の水の真上に約100万人が暮らしています。この大切な地下水をこれからも守り育んでいく使命を感じています。

— 次世代にくまもとの水を引き継ぐために

熊本の地下水の仕組みや現状をしっかりと伝え、節水や排水処理など、具体的に何ができるのか実践できる環境づくりや教育をみんなで考え、連携していくことが大切でしょう。地下水を守るには国境のような境界線はありません。水循環の中で、大気・海・河川・地下それぞれ全てが繋がっています。みんなで守る意識を強く持ちましょう！



「阿蘇水掛の棚田」田植え



吉無田水源(御船町)水質調査

第1回最優秀グランプリ
富士フイルム九州株式会社 様

地域と共に発展し、持続可能な 社会の実現を目指します

富士フイルム九州株式会社は2005年に設立された富士フイルムグループの高機能材料の生産会社です。弊社では2014年度に地下水保全顕彰制度のゴールド認証、2015年度には、節水・省排水の活動や水源かん養林事業、水田保全事業への取り組みを評価いただき第1回最優秀グランプリを受賞しました。

— 地下水を利用する企業としての責任

弊社独自に地下水汚染防止、節水、地下水かん養の取り組みを進めています。また熊本の地下水の恩恵にあずかる企業として、地域と連携した活動を大切にしています。具体的には、菊陽町ならびに農家と水田かん養の取り組み、南阿蘇村との水源かん養林に取り組んでいます。そしてこれからも、くまもと地下水財団など関係団体との活動へ積極的に参画していきます。

— 次世代にくまもとの水を引き継ぐために

この豊かな水資源を将来に引き継いでいくためには、使用した地下水のかん養が重要です。これからも地域と連携した活動の継続及び推進発展する事で、熊本の持続可能な社会へ貢献してまいります。



「地下水かん養田」稲刈り



建物外観

第2回最優秀グランプリ
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社 熊本テクノロジーセンター 様

継続的な水リサイクルと 地下水涵養による環境保全

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社は、ソニーの半導体事業を担うソニーセミコンダクタソリューションズグループの一員として、半導体製造におけるプロセス開発と生産を担っています。

— 社内、地域との協働

熊本の豊富な地下水を使用している熊本テクノロジーセンターでは、水使用量の削減や水リサイクルに加え、田植え前など作物を育てていない期間の田畑に水を張り、浸透させて地下水に還元する「地下水かん養」の取り組みを2003年から実施しており、取水量を上回る水を地下水に還元しています。この取り組みはNPO団体「くまもと未来ネット」、菊陽町及び大津町の農家の皆様、「水土里ネット」などの多くの方々と協力しています。

— 地下水を利用する企業としての責任

水問題は様々な問題にかかわる非常に大きな課題と認識しています。環境負荷の大きい企業の責務として、引き続き水リサイクル率の向上や地下水かん養を継続していくことで地下水保全に貢献していきます。



工場全景



地下水かん養事業

第3回最優秀グランプリ
サントリー株式会社 様

くまもとの豊かな水の恵みを 次の世代へ引き継ぐために

サントリー九州熊本工場はビール類に加え清涼飲料を生産する業界初の本格的ハイブリッド工場として2003年に竣工しました。生産面で高い総合力と良い品質を誇りながら、たくさんのづくり手たちが日々製品づくりに励み、さらには地域の皆様と一体となった地下水の持続可能性に向けた様々な取り組みを行っています。

— 地下水を利用する企業としての責任

水はサントリーグループにとって最も重要な経営資源であり、かつ地球にとって貴重な共有資源。だからこそ私たちは商品の源泉である自然の恵みに感謝し、恵みを生み出す自然の生態系が健全に循環するように、様々な取り組みを続けていきます。「水と生きる」企業として水を育む森を守り、あらゆる生き物の渴きを癒す水のように社会に潤いを与える企業でありたいと考えています。

— 次世代にくまもとの水を引き継ぐために

地下水保全活動への若い世代の参画や地域の方々とのリレーション強化などわれわれはまだまだやるべきことがあります。くまもと地下水財団様をはじめ各企業様とも連携強化し、次世代へ引き継ぐために、さらにくまもとの地下水保全の活動を推進していきます。



次世代向け環境教育 水育「森と水の学校」



従業員による湧水周辺エリアの清掃作業